

日本キャリア教育学会研究推進委員会企画



## 第3回キャリア教育カフェ実施報告

共催 研究推進委員会 中部地区部会

2021年8月11日（水）10:00-12:30、オンラインによる第3回キャリア教育カフェ（キャリア教カフェ）の夏休み特別企画として、高校生・大学生と語る「あったらいいな、こんなキャリア教育！」を開催いたしました。

第3回は夏休みということもあり、日頃会員のみなさまが研究の対象としている高校生・大学生の方をゲストとしてお招きし、キャリア教育を受ける当事者はどのようにそれを受け止めているのか、またどのようなキャリア教育があるといいなと思っているのか直接聞いてみようと思い企画し、当日は会長をはじめ全国の会員や非会員のみなさま約50名の方にご参加いただくことができました。

当日前半は現役高校生の井上創太さん、大学生の磯部建仁さん、小倉未来さん、熱田諒介さん、10代のキャリア教育コーディネーターとして活動されている鈴木友喬さんの5名の登壇者のみなさんから、それぞれが高校時代キャリアをどう考えていたのか、キャリア教育に対する課題意識と共に、こんなキャリア教育があったらよいのではないかと考えているアイデアをお一人10分ずつという短い時間ではありましたが、お話しいただきました。5名の登壇者のみなさまそれぞれが、自分たちが感じているキャリア教育上の課題を踏まえ、それぞれ何かしらのアクションをすでに起こしており、そこで感じていることや取り組みを行うことで見えてきたことをプレゼンして下さいました。みなさんただキャリア教育の受け手として自分のキャリアを考えるだけにとどまらず、それぞれが感じた課題をより良くするためのアクションをすでに起こしており、その行動力に大人も負けていられないなと刺激をもらいました。

その後サポーターの浦上昌則先生、辰巳哲子先生、家島明彦先生から、大人の真似事ではなく令和の新しい社会をどう描き作っていくイメージを持っているのか、などいくつかご質問いただくとともに、彼らの取り組みにつながる研究や論文などの知見についてご紹介いただき、新たな気づきを得る場面もありました。

その後、参加者の皆様からもいくつか質問が出され、そうした対話を通して彼らが「キャリア教育」をテーマに探究し続けられるのはなぜなのか、いつごろからキャリア教育を意識したのか、またキャリア教育をどう定義していたのかなど、登壇者のみなさんへの質問をきっかけに、高校で行われているキャリア教育を生徒としてどう受け止めていたのか、また行動しない同級生をどう見ているのかなど、様々なテーマについてみなさんで対話することができました。

なかでも印象的だったのは、登壇者のみなさんが幼いころから社会に出て、様々な挑戦を経験しているという共通点を持っていたことでした。最初は親に言われたり、たまたま参加しただけの地域の活動をきっかけに、活動の楽しさを知り今日にいたっていると伺い、多様な人と関わる場に出ていくことの大切さを感じました。

また、複数の登壇者の方から、「キャリアの話は友達や先生親には話しにくい」という発言が出てきたことも学校におけるキャリア教育を考えるヒントになりました。

後半では、登壇してくださった皆さんのお話を伺い、「大人にできることは若者の挑戦の邪魔をしないこと」、「大人として自分が何かに挑戦し続ける姿を見せていくこと」なのではないかという話題も出ていました。大人が若い人たちに「何かを教えよう」とするのではなく、大人は大人自身の世界で挑戦し続けることこそ大切なのではないかと改めて気づくことができた会でした。会の終わりには学会事務局長の永作先生からもコメントをいただき、私たちキャリア教育学会が、「キャリア教育に恋をした」若者たちに幻滅されないよう、さらに研究を通してよりよいキャリア教育のあり方を考えて行く活動を進めていくことを確認いたしました。そして本学会として、自身の挑戦をふり返り意味づけていくためにも、定期的にこうして会員のみなさまや若者たちと対等な場で対話や振り返りができる機会を持てるよう活動して行きたいと思えます。

参加された皆様から頂いたアンケートでも、今後もこうした企画を行ってほしいという声もいただきましたので、今回参加できなかった会員のみなさまも、次回是非皆様奮ってご参加いただけると幸いです。登壇者のみなさま、サポーターの先生方、参加者のみなさま、ありがとうございました。

高綱 睦美（副会長・愛知教育大学）